

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	ノンステップバス導入促進事業			事業番号	29-102
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	都市部	重田 浩光	都市政策課	飯田 裕一	

計 画 (Plan)

総合計画体系	都市力	まちづくり目標	4	住み続けたい快適で魅力あるまち		
		基本政策	9	快適で暮らしやすいまちづくり		
		施策展開の方向	1	安全で円滑な移動ができるまちをつくる		
		施策	29	バリアフリー対策の推進		
予算事業名	バス交通対策事務費					
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	努力義務規定がある	
事業開始年度	開始年度	平成25年度	～	終了年度	—	
関連法令等	・高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 ・国土交通省「地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱」					
国・県の計画等	・移動等円滑化の促進に関する基本方針			計画期間		
関連個別計画	・伊勢原市バリアフリー基本構想、伊勢原市交通バリアフリー基本構想、伊勢原市道路特定事業計画			計画期間		
実施の背景 (事業を取りまく環境 ・市民ニーズ)	公共交通の利用環境の改善と市民誰もが社会参加できる機会を増やすため利用者利便の向上が求められている。					
目的 (何をどうしたいのか)	国の基本方針に基づき、ノンステップバスの導入率を70%以上とするため、バス事業者と協調しながら、ノンステップバスの導入を促進し、バスの安全性及び利便性の向上を図る。					
主な対象 (誰・何を対象に)	バス利用者					
事業内容 (手段、手法など)	・バス事業者と協調しながら、ノンステップバスを計画的に導入していきます。					
事業行程	項目	年度		28年度	29年度	
		28年度	29年度	継続実施	継続実施	
	ノンステップバス導入					
目 標	【指標名】	【現状】	年度		28年度	29年度
			28年度	29年度	8台	11台
	ノンステップバス導入台数	4台				



事業実施 (Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	ノンステップバスの導入が求められる、市内の拠点医療施設などへアクセスする路線を優先し、段階的な普及を進めていく。		
実施方法 〔選択・記入〕	○ すべて直接実施 ● 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者
	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金		補助先 神奈川中央交通株式会社
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容
実施結果	項目	年度	
		28年度	29年度
	ノンステップバス導入	継続実施	
実施した取組の内容	・市の支援のもと、ノンステップバスが2台導入された。(平成25年度からの合計導入台数8台)		
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度
			28年度
	ノンステップバス導入台数	4台	8台
			29年度

年度		28年度 実績				29年度 実績			
コスト	事業費合計 (a)	2,800	千円				千円		
	内訳								
	国県支出金 ①	0	千円				千円		
	地方債 ②	0	千円				千円		
	その他特財 ③	0	千円				千円		
	一般財源 (a)-①-②-③	2,800	千円				0	千円	
	国県支出金の内容								
	その他特財の内容	受益者負担 ○ 有 ● 無		前回の改定時期					
	人件費								
	正規職員	0.03	人	260	千円		人		千円
	その他の職員	0	人	0	千円		人		千円
	人件費合計 (b)	0.03	人	260	千円		人		千円
	トータルコスト (a)+(b)	3,060			千円				千円
	単位当たりコスト								
	対象数	市民			単位				単位
	定義								
	対象数	101,635	人						
	総事業費 / 対象数	30	円						円

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左判断理由	バスの利便性向上及び利用促進を図るため、バス事業者と協議調整をしながら新たにノンステップバスを2台導入し、合計導入台数を8台とした。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	B	他都市の事業内容等	近隣市と同水準で計画的にノンステップバスの導入を促進している。引き続き、バス事業者と協議調整をしながら、計画的に導入を進めていく。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左判断理由	誰もが利用しやすいノンステップバスの導入により、公共交通機関の利用環境の改善と市民の移動の円滑化を促進した。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左判断理由	バス事業者と協議調整を図り、国の補助制度を活用することで、効率的、効果的にノンステップバスの導入を進めることができた。


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	更なる公共交通機関の利用環境の改善と市民の移動の円滑化を進めるため、国の補助制度を活用しながら、ノンステップバスの導入を積極的に推進していく必要がある。
次年度取組方針		バス事業者の車両入替計画と市のノンステップバス導入促進事業計画の整合を図りながら、引き続き、ノンステップバスの導入を促進していく。		
所管部長による総評		高齢化社会が進展する中で、ノンステップバスの導入は、通院や買物等にバスを利用する高齢者等にとって、移動の負担が軽減され、市民の移動の円滑化を図ることができる。また、公共交通機関の利用環境が改善されることにより、バス利用者が増加することで環境負荷の軽減等に寄与する事業である。今後も引き続き、バス事業者と協働で本事業を推進していく必要がある。		